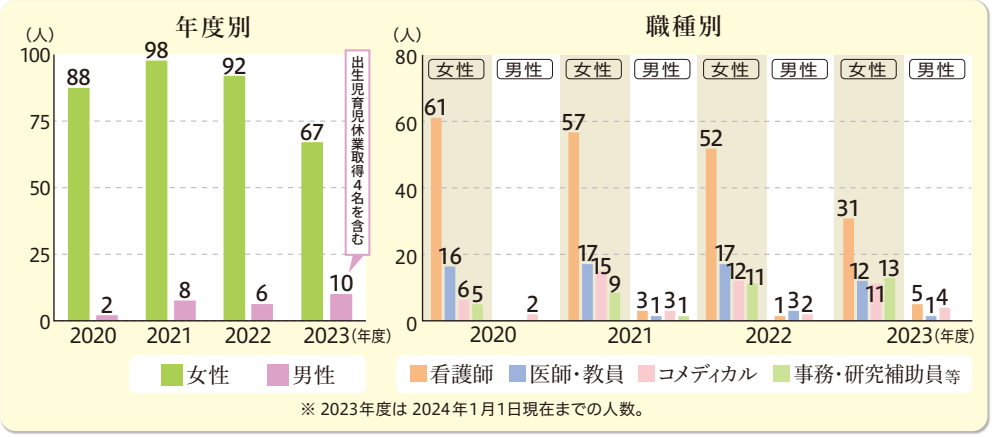
ダイバーシティ・インクルージョン
久留米大学 DI NEWS No.10
DI推進室発行　2024年3月

久留米大学 理事長　永田 見生

男性の育児休業取得者数
Background



※ 2023年度は 2024年1月1日現在までの人数。

「リケジョの極み！『女性医師と話そう』」
Report

DI推進室は、久留米大学医学部医学科オープンキャンパス（2023年7月23日）に初企画「リケジョの極み！『女性医師と話そう』」で参加しました。

同企画では、臨床の第一線を走り続ける高度救命救急センターCCU(Cardiac Care Unit) 副チーフ、講師の大塚麻樹さんから初期研修医まで、合計10名の女性医師が個別相談に応じました。個別相談の枠は当初12枠を準備しましたがすぐに満員となり急遽枠を追加しました。それでも当日の飛び入り参加も相次ぎ大盛況でした。

相談内容は勉強法から医師になった理由や女性医師の働き方、仕事と家庭の両立など、様々でした。

相談時間は20分ずつでしたが、終始笑い声が絶えることなく和やかなムードで話が進みました。

久留米大学には出産や育児といったライフイベントがハードルになることなく、自らの夢を叶えて活躍している女性医師がたくさんいます。オープンキャンパスを通じて、医学部を目指す高校生や受験生の皆さんに、女性医師が活躍する久留米大学の魅力を伝えることができたと思います。

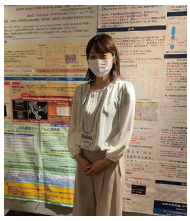
女性研究者紹介
Focus

医学部小児科学講座
助教　満尾 美穂

佐賀生まれ、佐賀育ち、（佐賀大学になる前の）最後の佐賀医科大卒です。現在の初期研修医制度開始年に医師となり、聖マリア病院で初期研修を行いました。そのご縁で久留米大学小児科学講座へ入局しました。専門は小児血液腫瘍で病棟・外来で診療にあたっています。また小児科の教育連絡主任として学生教育に携わり、コロナ禍で中断された開業医実習再開に向けて動いています。多くの学生さんと接して教育の面白さや難しさを感じ、自分ができることを探している所です。

プライベートでは8歳と5歳の女の子の母で、ご想像の通り、色々なことに追われて慌ただしい日々を過ごしております。

KG-PROJECTの『女性研究者へのデータ入力補助者解析補助者派遣制度』を利用させていただきました。何とか自身の研究も進めていきます。頑張ります。



DIコラム ❶
Column

“sexとgender”の使い分け

ダイバーシティ・インクルージョン(DI)推進室 副室長　守屋 普久子

学会発表や学術論文を見ていて違和感を覚える時がある。それは発表データの背景を示す性別の項目に、“sex”ではなく“gender”が使用されていることだ。

国連開発計画（UNDP）では、「男子、女子という生物学的性差を“sex”という語で表すのに対し、社会的・文化的に作り上げられた性別をジェンダーという」（1995年）と説明している。

一般医療で正常値として用いられる種々のデータには男女差が設けてあるが、この差は生物学的な違い、すなわち“sex”による性差であり、“gender”による性差ではない。また疾患によって罹患率などに性差がある場合も、“sex”によるデータに基づいている。

日本語ならば“性別”と表現できるが、英語標記の場合は“sex”が正しい場合も多いのではないか。“sex”と“gender”の違いを理解した上で、正しく使い分けたい。

発行　ダイバーシティ・インクルージョン（DI）推進室
〒830-0011 福岡県久留米市旭町67［久留米大学内］
Tel：0942-65-4719（内線3179）mail：d_inclusion@kurume-u.ac.jp
https://d-inclusion.kurume-univ.jp/
DI推進室のインスタグラム